



## 説教要旨「悪霊からの解放」

マルコによる福音書 1章21～28節

「権威」とは、自発的に同意や服従を促すような能力や関係のことです。イエス様が語った教えは、人々が自発的に従おうと思える権威ある教えでした。それまでは、律法学者たちが会堂で聖書の教えを人々に語っていました。律法学者たちは文字通り律法の専門家です。その知識を土台として人々に、律法を守って生きるためにこのように生活しなさい、と教えていたのです。しかしその教えは、自発的な服従を促すものではありませんでした。もしかしたら、「聖書にこう書いてあるのだから従いなさい、さもなくば神の怒りを買うだろう」。などと脅迫じみた教えで、強制的に服従させようとするものだったのかもしれませんが。イエス様の権威ある者としての教えを聞いた人々は、素直にその教えに聞き従おうと思われ、こんな教えはこれまで聞いたことがないと驚いたのです。

そのとき、汚れた霊に取りつかれたという男が叫び出しました。

「ナザレのイエス、かまわないでくれ。我々を滅ぼしに来たのか。正体は分かっている。神の聖者だ」。(24節)

汚れた霊は、人間の心を支配し、イエス様に対して、「かまわないでくれ」と叫ばせます。イエス様、そして神様との関係性を否定させようとする力、それが汚れた霊、悪霊の働きです。イエス様がこの霊を叱りとばし、「この人から出て行け」と命じると、この悪い霊は出て行きました。イエス様は、悪霊に取りつかれた人をそこから追い出したのではなくて、その人に取りついている悪い霊のみを追い出し、その人を神様のもとへと取り戻されたのです。

イエス様の神の子としての権威は、つまり神様の恵みの勝利は、十字架の死と復活において、あらわになりました。神様がその独り子イエス・キリストを遣わして下さり、十字架の死と復活によってわたしたちを罪の支配から解放し、神の子として生きる新しい命を与えて下さいました。この出来事によってこそ、イエス様の神の独り子としての権威が示されています。この救い主の生涯を、驚きをもって見つめることからわたしたちの信仰は始まるのです。

(2022・1・23 説教者：稲垣真実)